



鳥取県教育センターだより

Tottori Prefectural Education Center News

〒680-0941 鳥取市湖山町北5丁目201 【TEL】0857-28-2321（代表）【FAX】0857-28-8513

【URL】<http://www.torikyo.ed.jp/kyoiku-c/> 【e-mail】kyoikucenter@pref.tottori.lg.jp

「指標」及び研修計画の作成にあたって ～鳥取県教職員育成協議会をうけて～

教育公務員特例法の一部改正（平成28年11月公布）に伴い、校長及び教員の資質の向上に関する指標の策定と、指標を踏まえた研修計画の作成が義務付けられました。これを受けて現在、学校関係、大学関係、県市町村関係の代表からなる鳥取県教職員育成協議会が組織され、「指標」の策定や研修計画についての協議を行っています。研修計画の作成にあたっては、教員の大量退職・大量採用の時代の中で、若手教員の育成やミドルリーダーの育成が課題とされており、そのための研修体系の構築が急がれています。法改正では、10年経験者研修を改めた中堅教諭等資質向上研修について、学校における教育活動や学校運営の中核的な役割を果たすために必要な資質の向上を図ることと定めています。若手教員が基礎的素養・指導技術を習得し実践的指導力を身につけるとともに、中堅教諭にはミドルリーダーとしての基礎を身につけ、実践力を高めていけるような研修体系への見直しが求められています。今年度内の完成をめざして、今後も育成協議会で「指標」及び研修計画についての協議を重ねていきます。

平成29年度「とっとり未来教師セミナー」開講!!!

10月21日（土）、「とっとり未来教師セミナー」が開講し、鳥取県で教師をめざす42名のセミナー生が第1回セミナーに臨みました。

開講式では、教育センター所長の講話を受け、子ども一人ひとりの心に灯りをともす「教師の使命」を心に刻みました。また、島根大学の木下公明特任教授からは、「社会人・教師としての心得～これから教師をめざす皆さんへ期待すること～」と題して講話をいただき、「子どもの未来を担う教師としての覚悟」や「教育に対する夢や情熱」など、教師としての魅力や心構えについて学びました。その他、教育センター指導主事からコミュニケーション力を高めるための講義・演習を受け、児童・生徒のほめ方や叱り方のポイント、信頼関係構築の大切さについて学びました。

「とっとり未来教師セミナー」は、来年3月まであと3回実施する予定です。



～講義・演習「コミュニケーション力を高めよう」より～

バランスが大切



叱る時のポイント

- ① 確固たる教育理念
- ② 叱る根拠を明確に
- ③ 言動を叱って人を叱らない
- ④ 感情的に叱らない
- ⑤ 場所を考える
- ⑥ 長々と叱らない
- ⑦ 前のことを持ち出さない
- ⑧ 人と比較しない

ほめる時のポイント

- ① 具体的にどこがよいかを
- ② 努力している姿や過程を
- ③ 心を込めた言葉や態度で
- ④ 日頃の観察から

研修情報

中堅教諭等資質向上研修（小学校）⑥ ～直山調査官の講義より～

10月17日（火）に、次期指導要領で新たな教科となる外国語についての研修を行いました。直山木綿子調査官からは、まず、日本の子どもたちは、アウトプット（書く、話す）に課題があること、また、豊かな言語能力を持ち、コミュニケーション能力のある人材が求められていること等の現状から、外国語教育の必要性についてお話いただきました。そして、子どもたちが英語を使って何をしたいかを描けることが大切だとお示しいただきました。



<教科化・移行に向けてのポイント>

- ① ねらいが変わる。「慣れ親しむ」（活動）から「できる」（教科）へ。
- ② 移行は、必須である。（移行期間に積み上げておかないと、一度にたくさんのことを学ばなければならなくなる子どもたちが出てしまう。）
- ③ 小、中、高の系統の中での指導を考える。小学校段階では、「通じた！」「できる！」「わかった！」という小さな成功体験を積むことが大切。その意欲が、中・高でこつこつ努力を積み上げる原動力となる。
- ④ 学習の中では、その表現を自然と使いたくなるような場面設定が大事である。新教材「We Can」は、児童が興味を持ちやすく、必然性のある場面設定がしてある。各学校に教材をダウンロードするためのパスワードが配付してあるので活用して欲しい。

<受講者の感想より>

英語科について、教え込むのではなく、気づかせる、体験させるような授業展開のヒントが見つかったように思う。子どもたちに知識が積み上がっていくような指導を心がけたい。

＜シリーズ＞

OJT促進に向けて（第3回）

シリーズ第3回目の今回は、初任者研修と中堅教諭等資質向上研修のコラボ研修より、若手とベテラン（中堅）が共に成長していくためのOJTのあり方について掲載します。

多様な教育課題に対応するために、教職員の資質・能力の向上が強く求められています。今こそ、ベテラン教員がこれまで培ってきた貴重な経験を若手教員に伝えていき、学校全体の教育力を高めていくことが必要です。当センターでは、本年度も初任者と中堅教諭（10年経験者）との合同の研修を実施し、若手とベテラン（中堅）が共に学び合う機会を設けました。小学校では学級経営について、中学校・高等学校では主に学習指導について、合同で研修しました。

研修では、中堅教諭が初任者の悩みや課題に対して、意見やアドバイスを送るだけでなく、互いの取組や工夫を紹介しあい協議することで、ともに学びの大きな研修となりました。



＜中堅教諭の感想（初任研・中堅研のコラボ研修より）＞

- ・指導案検討の際には、自分では思いつかないような発想に触れることができた。初任者の柔軟なアイデアも参考にしていきたい。
- ・初任者に話をすることで、新たな気づきやこれまでの実践の再確認ができた。今後も、自分から積極的に話しかけていきたい。

「OJT」というと、制度・仕組み・手法・技法等と難しく受け止められがちですが、まずは、日常のごく自然な若手とベテランの関わり合いの場と理解することが必要です。朝夕の挨拶や仕事の話と同僚とざっくばらんに話し合う機会を定期的にもつことから始めるのが大切です。ベテランから若手への一方的な指導ではなく、ベテランも若手もともに学び、ともに成長することが求められます。また、ベテランの姿勢として、経験をもとに手本を示すことが大切です。OJTを実践していく上で大切なのは、ベテランの示範です。まずは、声をかけ合い、いろいろな教職員で関わり合い、若手もベテランもともに成長する職場をめざしていきたいものです。

職員研修にうかがいます！～「出かけるセンター」(ICT活用研修)～

「出かけるセンター」のICT活用研修では、「学校に導入されたICT機器を授業で活用したい！」といった声にお応えします。今年度もセンターには職員向けのICT活用研修のご依頼が多く寄せられ、学校現場のニーズに合わせた研修を実施しています。例えば、タブレット端末が導入された高等学校で、実際の操作方法について機器を触りながら体験するような研修や、小学校の実際の授業場面を想定し、学校にあるICT機器を活用し、よりよい授業づくりを考える研修を実施しました。さらに、2020年度から必修化となる小学校でのプログラミング教育について、その意味や進め方について実際の教材を体験しながら学ぶ研修も実施しました。

今後ますます進んでいくICTの活用に向け、少しでも現場の手助けとなるよう、センターが出かけていきますのでご活用ください。詳しくは当センターのホームページをご覧ください。



「見る」のではなく「眺める」こと

いわゆる「ものの見方」は、学校教育においても重要な要素です。「眺める」というと、何だか無責任・傍観者的で当事者意識の欠如といった指摘を受けそうなのですが、このことについて『ドラゴン桜公式副読本「40歳の教科書」』（講談社）の中で、美術家の横尾忠則氏が実におもしろいエピソードを語っておられますので、紹介します。

草津温泉に行った帰りに、バスに乗ってみたわけ。普段はバスに乗る機会もないから、おもしろいと思って。通路を挟んで僕の横並びに座っているおじいちゃんとおばあちゃんの老夫婦。そしてバスが走り始めると、突然おじいちゃんが大きな声で「あっ、草津消防署だ」と言うんだ。視線の先を見てみると、たしかに消防署がある。すると今度は「あっ、ナントカ信用金庫」と指をさす。なるほど信用金庫がある。そこから駅に着くまで、ずーっと建物の実況中継ですよ。「あっ、セブンイレブンだ」「中華料理金龍閣だ」なんて感じで、目に入った建物の看板を全部読み上げちゃう。一方のおばあちゃんはどうしているかというと、旦那の言葉を無視して外の景色を眺めながら、「まあ、きれいな紅葉ね」「あら、素敵な溪谷ねえ」と感心している。

つまり、おじいちゃんは景色のディテールを「見ている」のに対し、おばあちゃんは景色の全体を「眺めている」わけ。きっとおばあちゃんには、消防署も信用金庫も見えていない。もっと大きな、全体としての景色を理解している。これってすごく象徴的な話で、見るという行為は、捉える範囲が狭いんですよ。そして細部にこだわるあまり、物事の全体を見失う危険性が高い。

きっと日常のつまらない雑念にとらわれるのも、物事を「見ている」からじゃないかな。もっと大きな視点から「眺める」という意識を持てば理解も深まるし、発想も豊かになって、どーでもいいやという図太さだって出てくる。この「眺める」という意識は、誰にとっても大事なものだと思えますね。

所長 小林 傳